



バイエル薬品株式会社

〒530-0001
大阪市北区梅田 2-4-9
TEL 06-6133-7333
www.bayer.co.jp/byl

News Release

増加する前立腺がん患者さん、骨転移リスクへの認識低く

バイエル薬品、前立腺がん患者さんの症状・治療に関する意識調査結果を発表

- 背中に痛みを感じていても 35% の患者さんが医師に言わないと回答
- 痛みを感じていても、PSA 検査以外の検査を希望する人は半数以下
- 骨転移を治療することで、何が変わるかは「分からない」が 48%

大阪、2016年12月8日 — バイエル薬品株式会社(本社:大阪市、代表取締役社長:カーステン・ブルン、以下バイエル薬品)は、前立腺がんの治療を受けている患者さんの症状および検査・治療に関する意識調査を行いました。本調査は、2016年9月7日～9月9日に、前立腺がんの治療のため定期的に通院している50代～80代の男性300名を対象に、インターネットによるアンケート形式で実施しました。

〈調査結果概要〉

- 背中に痛みを感じていても 35.0% の患者さんが医師に「言わない」と回答
- 医師に痛みを「言わない理由」として、半数以上が「前立腺がんとは関係のない症状」(53.3%)「PSA の検査値を確認しており気にしなくて良い」(52.4%)と回答
- 「言わない」と回答した人の 61.0% が、「前立腺がんに関係があるなら」言うとは回答
- 痛みを感じていても、PSA 検査以外の検査を希望する人は半数以下。その理由は、「PSA を確認しているので問題ない」(43.0%)、「前立腺がんとは関係ない」(34.8%)など
- 「骨転移を治療することで何が変わるか？」に対して「分からない」が 48.0%

前立腺がんは日本でも増加しており、2016年の発表によると、2012年において新たに前立腺がんと診断された男性の患者数は、胃がん、肺がんに次ぐ第3位で約73,000例と推定され、2016年の予測罹患数は約92,600例と、2015年と同様に男性のがんの第1位となっています*。

前立腺がんは、前立腺の細胞が細胞増殖の正常な調節を失い、無秩序に自己増殖することにより発生します。前立腺がんが進行し、去勢抵抗性前立腺がんと呼ばれる状態になると、患者さんのおよそ10人中9

人(90%)が骨転移を有し、疲労や衰弱など日常生活に支障を来す症状が表れることから骨転移の治療が重要となります。

本調査結果を受けて、北里大学医学部泌尿器科 准教授 佐藤威文(さとう たけふみ)先生は、「前立腺がんは骨転移の多いがんです。骨に転移すると骨折しやすくなり、部位によっては寝たきりになったり、その結果、肺炎をはじめとする重篤な合併症を引き起こすなど、骨転移によって患者さんの生活の質(QOL)は大きく低下します。PSA 検査だけでなく、ALP(アルカリホスファターゼ)の数値や骨シンチグラフィーなどを用いて骨転移を適切に発見し、治療を行なっていくことが QOL を維持・向上するうえで非常に重要です。痛みなど、ささいな症状でも医師に相談することが大切です」と述べています。

*:「がんの統計'16: がん登録・統計」国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センターより

主な調査結果は次のとおりです。

【調査概要】

対象:前立腺がんの治療を受けている 50代～80代の男性

地域:全国

方法:インターネットによるアンケート調査

時期:2016年9月

有効サンプル:300名

注)本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入の丸め計算を行っているため、合計しても100%とならない場合があります。

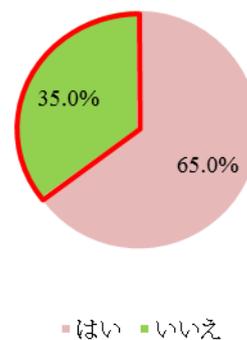
本調査は「2週間前から背中に痛みが現れて強くなってきた」という状況を仮定した設問により構成されました。

【結果の詳細】

■ 背中に痛みを感じていても、医師に「言わない」が 35.0%

前立腺がんの患者さんで現在定期的に通院している人のうち、背中の痛みがあった場合、受診の際に医師に相談すると回答した人が65.0%だったのに対して、PSAの検査値が悪化していなければ「言わない」と回答した人は35.0%と、およそ3人に1人は痛みを我慢していることがうかがえます。

痛みについて医師に言いますか(n=300,%)



- 痛みについて「言わない」理由は半数以上が「前立腺がんとは関係のない症状」(53.3%)、「PSA の検査値を確認しており気にしなくて良い」(52.4%)と回答

「言わない」と回答した人に、その理由について尋ねたところ、多くの人が「前立腺がんとは関連のない症状である」(53.3%)、「(前立腺がんのバイオマーカーである)PSA 検査値を確認しているので気にしなくてよい」(52.4%)と回答し、痛みが前立腺がんに関連する可能性への認知が低いことが分かりました。

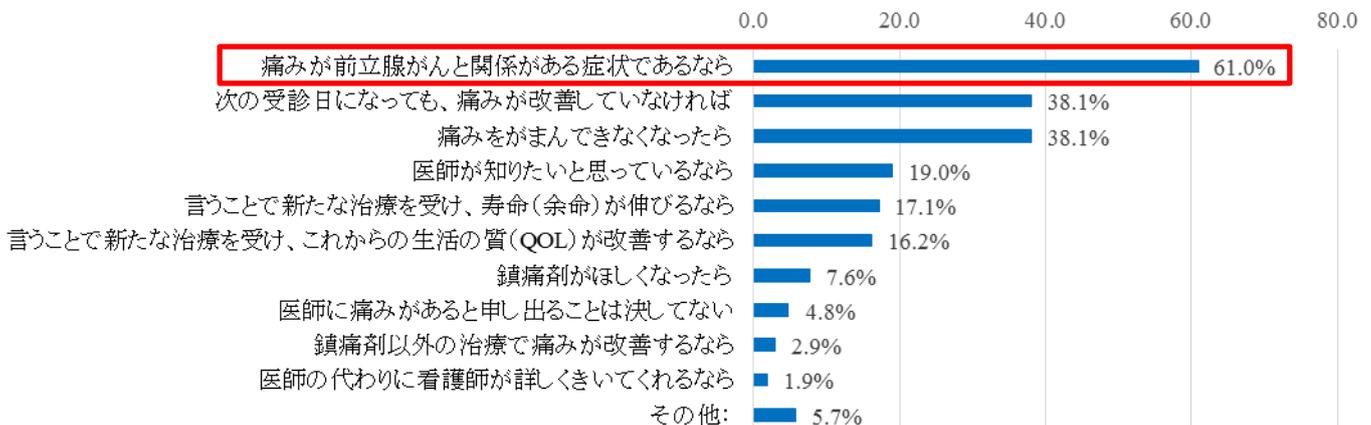
痛みを感じていても医師に「言わない」理由 (n=105,% 複数回答)



- 痛みについて「言わない」と回答した人の 61.0%が、「前立腺がんと関係があるなら」と回答

痛みを感じていても医師に「言わない」と回答した人に対して、どのような条件なら痛みがあることを相談するか尋ねたところ、半数以上の 61.0%の人が、「前立腺がんと関係がある症状であれば」「言う」と回答しました。また、「言うことで新たな治療を受け、寿命(余命)が延びるなら」(17.1%)、「言うことで新たな治療を受け、これからの生活の質(QOL)が向上するなら」(16.2%)、と、解決策があれば相談するという傾向もうかがえました。

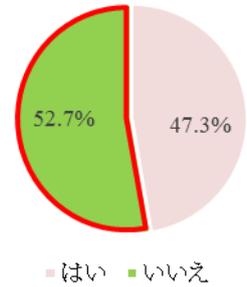
どのような条件なら痛みがあると医師に言いますか (n=105,% 複数回答)



■ 痛みを感じていても、PSA 検査以外の検査を希望する人は半数以下

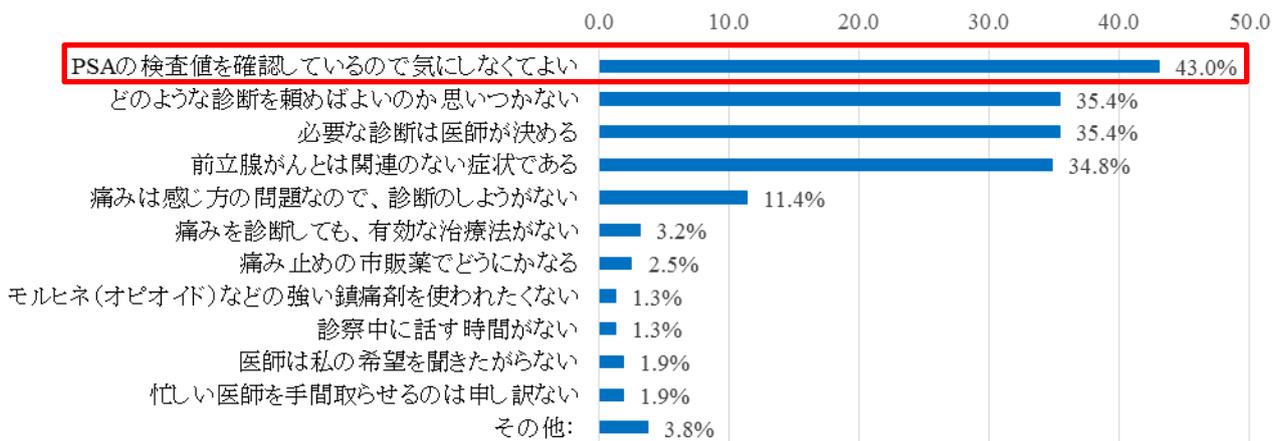
背中中の痛みがあった場合、受診の際に医師に PSA 検査以外の検査を「希望する」と伝えると回答した人が 47.3%だったのに対して、52.7%が「希望しない」と回答しました。

PSA検査以外の診断を希望するか(n=300,%)



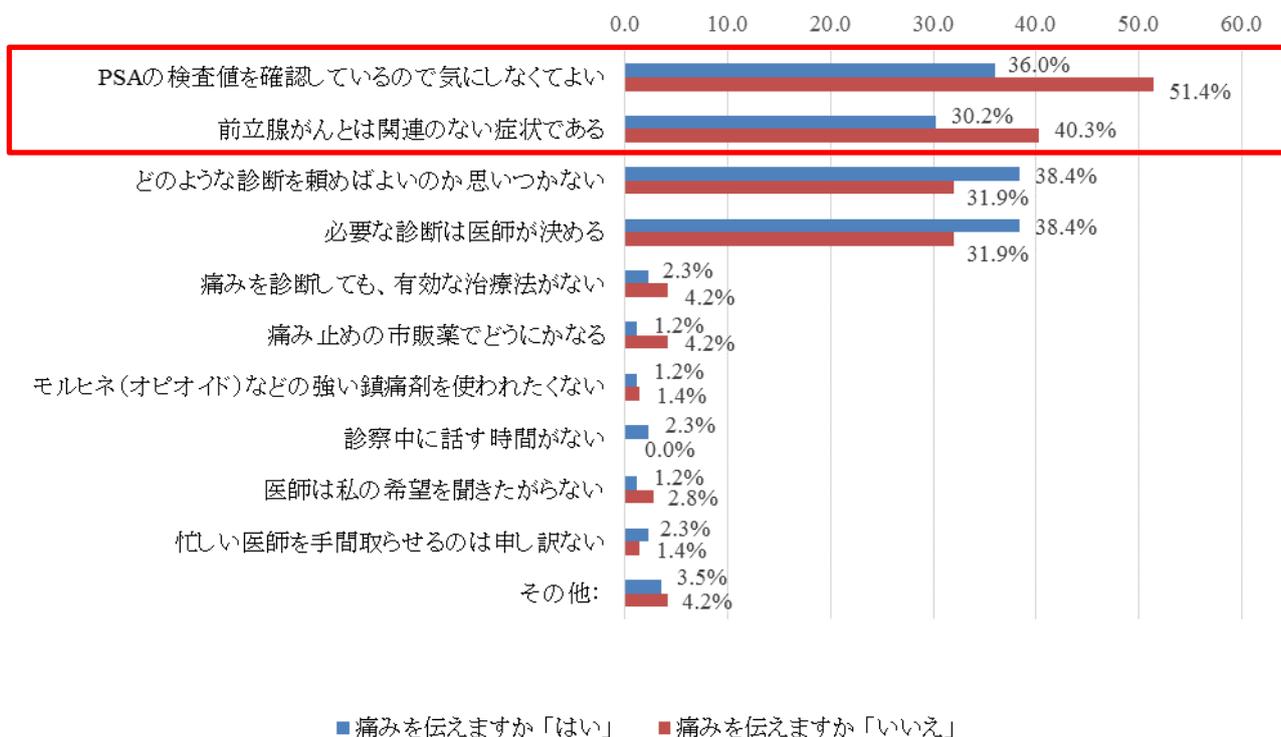
「希望しない」と回答した人に対して、その理由を尋ねたところ、「PSA 検査値を確認しているので気にしなくてよい」(43.0%)が最も多く、その他「どのような診断を頼めばよいのか思いつかない」(35.4%)、「必要な診断は医師が決める」(35.4%)、「前立腺がんとは関連のない症状である」(34.8%)と続き、PSA 検査のほかに痛みの原因を調べるために必要な検査についての認知が低い現状が明らかになりました。

PSA 検査以外の診断を希望しない理由 (n=158,% 複数回答)



また、この傾向は、痛みがあることを医師に「言わない」と回答した人に強く見られました。痛みがあることを医師に「言う」と回答した人では、「PSA 検査値を確認しているので気にしなくてよい」は 36.0%だったのに対し、「言わない」と回答した人では 51.4%と過半数を超えました。「前立腺がんとは関連のない症状である」との回答も「言う」と回答した人 30.2%に対して、「言わない」とした人が 40.3%と、いずれも 10 ポイント以上の差が見られました。痛みがあることを言わない理由として検査への認知不足が影響している可能性がうかがえます。

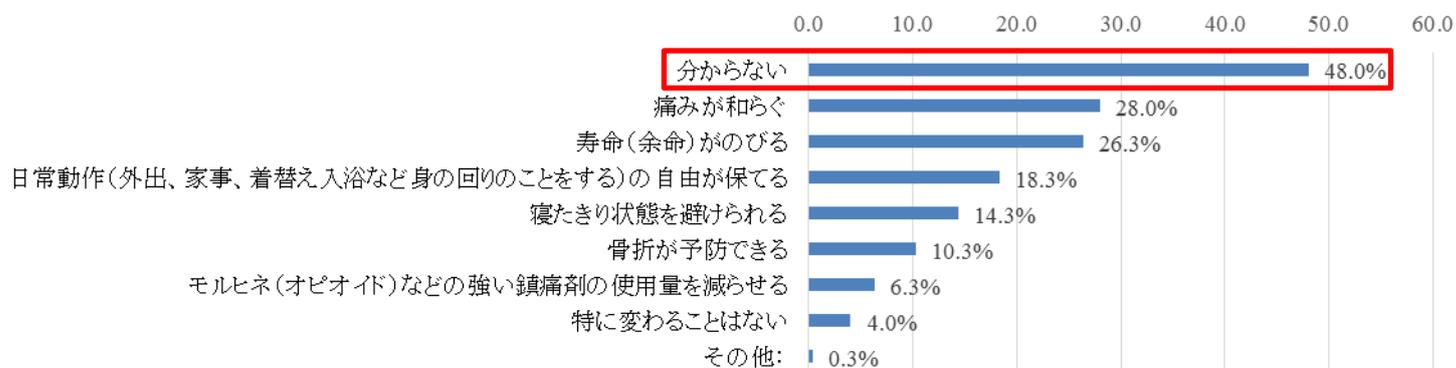
PSA 検査以外の診断を希望しない理由 (n=158,% 複数回答)
 痛みを医師に伝えますか「はい(言う)」「いいえ(言わない)」別にみた場合



■ 骨転移を治療することで何がかわるか「分からない」が 48.0%

前立腺がんの骨転移を治療することで得られる影響について尋ねたところ、「分からない(48.0%)」がもっと多く、「痛みが和らぐ(28.0%)」、「寿命(余命)がのびる(26.3%)」と、治療のメリットが十分に理解されていない可能性が示唆されました。

骨転移を治療することで何がかわると思いますか (n=300,% 複数回答)



バイエルのオンコロジー領域について

バイエルは、革新的治療薬の品揃えを充実させることで、「よりよい暮らしのためのサイエンス」をお届けできるよう取り組んでいます。バイエルのオンコロジーフランチャイズには現在、3種類の抗癌剤と、臨床開発のさまざまな段階にあるその他いくつかの化合物があります。これらの製品・化合物が、バイエルの研究に対するアプローチ、すなわち、癌の治療法に影響を与える可能性のある標的やシグナル伝達経路を優先するという姿勢を示しています。

バイエルについて

Bayer: Science For A Better Life

バイエルは、ヘルスケアと農業関連のライフサイエンス領域を中核事業とするグローバル企業です。「Science For A Better Life」というミッションのもと、バイエルはその製品とサービスを通じて、人々のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上に貢献すると同時に、技術革新、成長、およびより高い収益力を通して企業価値を創造することも目指しています。また、バイエルは、持続可能な発展に対して、そして良き企業市民として社会と倫理の双方で責任を果たすために、これからも努力を続けます。グループ全体の売上高は463億ユーロ、従業員数は117,000名(2015年)。設備投資額は26億ユーロ、研究開発費は43億ユーロです。この数字は、コベストロ社として株式市場に2015年10月6日に上場した高機能ポリマー材料の事業を含んでいます。詳細は www.bayer.com をご参照ください。

バイエル薬品株式会社について

バイエル薬品株式会社は本社を大阪に置き、医療用医薬品、コンシューマーヘルス、動物用薬品の各事業からなるヘルスケア企業です。医療用医薬品部門では、循環器領域、腫瘍・血液領域、ウイメンズヘルスケア領域、眼科領域、画像診断領域に注力しています。コンシューマーヘルス部門では解熱鎮痛薬「バイエルアスピリン」をはじめ、アレルギー性疾患治療剤や皮膚科領域に注力しています。動物用薬品事業部は、動物用医薬品の提供を中心にコンパニオンアニマルおよび畜産動物のヘルスケアに貢献しています。同社は、「Science For A Better Life」というミッションのもと、技術革新と革新的な製品によって、日本の患者さんの「満たされない願い」に応える先進医薬品企業を目指しています。詳細は www.by1.bayer.co.jp/ をご参照ください。

バイエル薬品株式会社

2016年12月8日、大阪

この件に関するお問い合わせ先:

医療用医薬品部門 製品広報

山田 (Tel: 03-6266-7741、080-8547-0929)

広報代表 (Tel: 06-6133-7333、Fax: 06-6344-2179)

将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)

このニュースリリースには、バイエルの経営陣による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements) が含まれています。さまざまな既知・未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因には、当社の Web サイト上 (www.bayer.com) に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。当社は、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負いません。